

ごみ処理基本計画（平成26年度策定・平成28年度改訂）の進捗状況

現行計画期間：平成26年度～平成35年度（令和5年度）【10か年】

次期計画期間：令和6年度～令和15年度【10か年】

施策	項目		H24実績	H27実績	H28～R2実績	H35年度目標 R5年度目標	現状、課題 ・ 今後の対応
市民協働	① ごみへの取組みに関する市民満足度 ^{※1} (点)	計画値	2.7	3.1		3.5	【現状、課題】 ・市民意識調査の市民満足度の結果は、平成27年度から横ばいで推移しており、目標値には近づいていない。 ・市内750箇所の集積所の管理や分別の指導を行う衛生自治会へ、毎年、環境美化交付金を交付している。各区へは世帯割、均等割りで交付し、集積所の維持管理として利用いただいている。 【今後の対応】 ・環境美化交付金の交付方法について、集積所の設置等の申請への補助として見直しをすることで、地域の活動を支える取り組みを促進する。 ※1 市民意識調査結果を5点満点で算出した数値 調査項目名：環境保全やごみ対策など環境衛生の取り組み
		実績値			H28 3.0 H29 3.1 H30 3.1 R元 3.1 R2 3.1		
市民協働	② 小諸市版ごみ減量アドバイザー制度の創設	計画値	—	ごみ減量アドバイザーが地域で活動している		ごみ減量アドバイザーの活動が定着している	【現状、課題】 ・クリーンヒルこもろの視察見学、各種団体の会議等での環境学習の講師として活動している。 ・令和元年度以降、コロナ禍の影響で、各種イベント等が中止となり、活動の場が減少している。 ・同様の理由により、アドバイザー養成講座が開催できない期間が長く、新規アドバイザーの育成が進んでいない。 【今後の対応】 ・ホームページで活動状況を紹介する。 ・アドバイザー養成講座の中で、クリーンヒルこもろ見学時の環境学習を新規アドバイザーに見ていただく。 ・SDGs、食品ロス、プラスチックの資源循環施策等、行政より情報提供し、アドバイザーの活動の推進につなげていく。
		実績値					
ごみ減量	③ 家庭ごみの市民1人1日当りの総排出量 ^{※2} (kg/人・日)	計画値	593	582		591	【現状、課題】 ・令和元年度の増加は、コロナ禍の巣ごもりによるごみの片づけも要因の一つと思われる。 【今後の対応】 ※2 家庭系ごみと集団資源回収量の合計値
		実績値		576	H28 590 H29 595 H30 594 R元 600		
	④ 事業系ごみの年間排出量 (トン/年)	計画値	3,185	3,134		2,960	【現状、課題】 ・増加傾向にあり、目標値から大きくかけ離れている。 ・事業所に対する分別指導が行き届いていなかった。 【今後の対応】 ・「燃やすごみ」の展開調査を再開し、紙類、缶、びん等、資源の分別指導の徹底を図る。 ・事業所に対して、食品ロスの推進に係る啓発活動を進める。
		実績値		3,134	H28 3,225 H29 3,250 H30 3,256 R元 3,310		
	⑤ 事業系ごみの市民1人1日当りの総排出量 (kg/人・日)	計画値	200	200		200	
		実績値		198	H28 205 H29 208 H30 209 R元 213		
⑥ 市民1人1日当りの総排出量 (家庭系③+事業系⑤) (kg/人・日)	計画値	793	782		791	【現状、課題】 ・増加傾向にあり、目標値から大きくかけ離れている。 【今後の対応】 家庭系、事業系、それぞれの取り組みをする。	
	実績値		773	H28 795 H29 803 H30 803 R元 814			

ごみ処理基本計画（平成26年度策定・平成28年度改訂）の進捗状況

現行計画期間：平成26年度～平成35年度（令和5年度）【10か年】

次期計画期間：令和6年度～令和15年度【10か年】

施策	項目		H24実績	H27実績	H28～R2実績	H35年度目標 R5年度目標	現状、課題 ・ 今後の対応
分別	⑦ 家庭系ごみ ^{※2} 中の資源物が占める割合	計画値	55.6%	51.7%		55.6%	<p>【現状、課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「燃やすごみ」の排出量増加と、「資源物」の減少により、資源物の割合が減少し続けている。 新聞、雑誌の発行部数の減少、大型店舗による店頭回収などのライフスタイルが変わってきていることに伴い、市で収集する資源物の割合が減少していることも資源物の減少の要因の一つと考えられる。 市が収集する資源物の減少と、資源物の分別が一般的に定着してきていることから、これまでの集積所による収集運搬と、報奨金制度による集団回収の両方を続けることは、必要以上に市の財政負担となっており、報奨金のあり方を見直す必要がある。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集積所に排出される「燃やすごみ」の組成調査により、「燃やすごみ」以外の項目を詳細に分析し、分別を徹底するための対策をとる。
		実績値		51.7%	H28 46.2% H29 42.0% H30 41.6% R元 39.3%		
分別	⑧ 家庭系資源ごみ総量中 ^{※3} の集団資源回収量が占める割合	計画値	24.5%	23.3%		24.5%	<p>※2 家庭系ごみと集団資源回収量の合計値</p> <p>※3 家庭系ごみの資源ごみと集団資源回収量の合計値</p>
		実績値		23.4%	H28 25.5% H29 26.1% H30 24.1% R元 24.6%		
収集運搬	⑨ 収集運搬業務への民間事業者の参入	計画値	部分的に委託	部分的に委託		収集品目の半分程度を競争入札で委託	<p>【現状、課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度、直営による収集運搬業務を終了し、令和元年度より全面委託をしている。 将来に渡りし尿等の適正な処理を確保するとともに、一般廃棄物処理業者等の業務の安定を保持することを目的として計画を策定し、浅麓工業企業組合と随意契約を締結している。 市の業者選定委員会の審議の中で、競争入札に付すべき（検討すべき）との意見がでている。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> し尿処理合理化対策連絡協議会、及び市財政課と協議を進める。
		実績値			浅麓工業企業組合と随意契約		
処分	⑩ 最終処分率 ^{※4}	計画値	10.6%	10%を下回る		5%を下回る	<p>【現状、課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度クリーンヒルこもろの供用開始と同時に、野火附廃棄物埋立処理場の市民受け入れを終了している。 現在、最終処分は、焼却残渣の8割が飯山市の飯山陸送へ埋立を委託しており、残りの2割が埼玉県寄居町のツネイシカムテックスへ運搬し路盤材としてリサイクル処理している。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 焼却残渣の処理に当たっては、運搬等の処理経費やリサイクル処理による循環型社会形成推進、受入先がストップした場合のリスク等を踏まえ、埋立処分とリサイクル処分を併用し、複数の処理ルートを確認する必要があることから、新たな処理ルートの追加を検討する必要がある。 <p>※4 ごみ総排出量に占める最終処分量</p>
		実績値		3.10%	H28 1.6% H29 5.8% H30 6.7% R元 6.0%		